



ぶどうのささやき

23号

2017年
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

質の高い生活

(high quality of life; HQOL) は自信を持てる健康から

新年あけましておめでとうございます。そして初めまして。

葉山ハートセンターという心臓専門の高度医療施設で心臓血管外科医としてお世話させて頂いている樋上と申します。そもそも本会の皆様方とは、どちらかといえば縁遠い職種である私ですが、私どもの市民公開講座（医療講演）で、たまたまご出席いただいた理事長の木下武様に強く関心を持って頂いたことがご縁でここにこの巻頭言を書かせていただくことになりました。以後どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、皆様は新しい年を心身ともに全く不安なく健やかに迎えになられたでしょうか？ ある一定以上の年齢になると誰しも、なにかしらの体調の異常を感じられた経験をお持ちであるが故に、何よりも健康が大事で幸せの源であるということを感じられていることと思います。健康とは、未病の心配がなく、質の高い生活（high quality of life; HQOL）を維持できることを意味します。

厚生労働省の統計によると、日本人の死因の第一位は悪性新生物で、第二位は循環器系疾患いわゆる心臓病です。特に、70歳を超える高齢者では循環器系疾患が第一位になっています。心臓の病気には、全く予兆なく突然発症し死に至る病気（「心筋梗塞」「大動脈解離症」など）や、症状の軽さと心臓病の重症度が相関しないもの（「大動脈弁狭窄症」「感染性心内膜炎」など）が多いからです。

これらを事前に見つけるには、心臓に特化した検診（検査）を受けることが必須です。会社の定期健診で心電図に異常がなくても、これらの病が潜んでいて知らず知らずのうちに重症化していることは多々あります。

私どもでは、昨年春にスクリーニングセンターを開設しました。ここでは、心臓に特化した精密検査を半日で集約的にを行い、重大な心疾患の発症の可能性を事前に評価し、必要に応じて最適な治療までを一貫して行っています。

ここで心筋梗塞を例に、具体的に HQOL をいつまでも保つ方策を述べておくことに致します。

葉山ハートセンター
院長／心臓血管外科センター長
樋上 哲哉



心筋梗塞とは、心筋への酸素供給をしている冠動脈が閉塞し、酸素不足で心筋が死滅（壊死）して収縮力を失うことにより、心臓の働きが極端に低下し、死に至る病気です。したがって、発症してしまうと HQOL を保つことは不可能となります。それゆえ、発症の一手手前で治療することが極めて重要となります。具体的には、冠動脈が動脈硬化で詰まりかけているのを事前に見つけて、これを治療することで多くの心筋梗塞は回避できます。

治療法には、カテーテル治療と冠動脈バイパス手術（数年前に天皇陛下がお受けになった方法）があります。10年、20年後を見据えた HQOL を維持するには、長期に渡って開存が保証されるバイパス材料で、失敗なく合併症のない手術が必要です。これは、18年前に私が開発した超音波メスで採取する左右2本の内胸動脈を用いることと、心臓を止めず行う完全心拍動下冠動脈バイパス術を組み合わせることで達成可能です。

弁膜症、大動脈瘤などでも恐ろしい死に直結する病気は多く存在しますが、適確な治療法とその治療タイミングにより、HQOL の確保は可能です。

さあ、今年こそは、健康について真剣に向き合って一度からだのチェック、特に循環器系の評価を入念にしてみたいかがでしょうか？ 社会で重要な役目を担っていらっしゃる皆様にとって健康が一番大切です。万全の予防の為に正確な健康チェックをして頂き、ご自身の現状（健康か未病か病気か）をしっかりと把握され、これからも元気にご活躍されることを祈念致しております。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



新春のご挨拶・・・今年の抱負・・・



理事長 木下 武

明けましておめでとうございます。

本年は酉年、当会も設立から13年目を迎え縁起の良い干支とともに益々発展するよう心がけていきますので、皆様からのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

一昨年、近代工業発展の基礎となった横須賀製鉄所・造船所創設150周年を経て、本年は横須賀市制110周年を迎えます。横須賀市は産業の「将来あるべき姿、望ましい姿」を展望して1997年に横須賀産業ビジョンを策定しました。しかしその後、社会環境に変化が生じ新たに横須賀産業ビジョン2011が作成され、2021年度に向けて活性化を図るべく本市の資源・特性を生かして成長分野、例えば「史跡等の観光資源活用」や「企業誘致の事業展開」などの産業振興策が始まり、2014年以降、横須賀軍港の観光船就航、企業誘致7社が実現するなど明るいニュースがあります。

さて、昨年は認定NPOの5年間の期限がきれるため、前年度より県の担当部門の指導を得て神奈川県知事に再認定を申請し、7月に新たに5年間の認定が認められました。認定の趣旨に沿って、当会活動の6部門、企業・環境・海外関連・新しい公共・産官学連携・広報部門の活動を一層充実させ活発化させていきたいと考えております。

新しくある年をも^{もともとせ}百年の春のはじめと鶯ぞ鳴く

紀貫之『貫之集』

具体的には、中小企業・小規模企業への支援を一層拡大、充実するために各種工業団体、横浜・横須賀商工会議所、大学などと連携をしており、その成果が出てきて企業支援・環境支援・海外関連支援などで実質的な支援業務から収益を上げております。また産官学連携・広報部会活動は当会のPR効果があり、新しい公共支援活動では、地域経済活性化などを新視点から支援を展開できるようにしたい。

活動規模としては法人会員25社、個人会員27人からなる所帯になりますので、会員間のコミュニケーションを大切に、各社・各人の個性を尊重しながら干支の酉年を元気に楽しく活動すること、経営者・個人交流会の開催や情報交換の適時実施、加齢対策や趣味・娯楽・呑み会などができるチャンスを設け、シニア集団が益々活発になるよう心がけます。

今年も、皆様方の倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【歳時記】 一本の雪道

まだ明けやらぬ雪あかりの中 家族と近くの神社に初詣
父母が行きかう知り合いと「おめでとうごえす」の挨拶
なんとなく面映ゆい気持ちがあったんだ

正月はドカ雪の時もあるし 少ししか積もっていない時もあったがとにかく寒かった

ドカ雪の時は雪道は一本道 神社への雪道はつるつる滑る一本道

本格的な雪になると空からまるで塵かと見まごうばかり雪が諄々と降ってくる

軒先から空を仰いで降ってくる雪を飽きることなく見ている
いったいどこから湧いてくるのか

手のひらに受けるとすぐ消える雪の結晶 次から次へと「今晚は積もるの」と母の声

初雪の朝はシーンとして静寂の中に居ても「ゆきやく」とすぐ分かる
外の様子がいつもより明るく 外は一面雪景色 木々が雪で覆われモノトーン

前日のみぞれ模様とは違い何となく暖かい感じがふしぎ
気分はもうわくわく 早や妹弟と外に出る
未だ誰も歩いていない雪道に足跡をつけて跳びはねる

街中の軒を連ねる商店は店の前をこぞつて雪かき

ちよつと街中を外れると雪道はもう一本道

両側の雪の丈が腰まであるつるつる滑る一本道

行き交う人は多くはないが人々は一本道では「ありがとごえす」と道を
ゆずり合う

たまに傘どうしが邪魔になるが傘は高価な貴重品 雪国では傘などあまり
り差さなかった

年寄りにはマントを着て 子供は襟巻き 母の手編みの襟巻き
吹雪の中 人々は道をゆずり合う 子供は年寄りに道をゆずる

女はみんな働き者で男をたてる土地柄 控えめにみんなに道をゆずる

つるつる滑る雪道を踏み外すと長靴が雪にぶこぼる、

長靴に雪が入ってくると少し面倒がはじまる

そのまま歩くから長靴の中はぐしょぐしょになってくる

長靴を脱いで家に入って 畳もぐしょぐしょ「この子はもう」と母が
叱る

一本の雪道は今ももう見ない マントも見ない 叱る母もいない

ノスタルジィー 雪道はつるつる滑る一本道
雪国の春はまだ遠い(興)

都市ごみ破碎機の研究開発型企業としてのあゆみ

当社は自治体の都市ごみ焼却施設でごみを完全燃焼させるために、ごみを予め細かく破碎をする破碎機を製造、販売するメーカーです。弊社の形態はエンジニアリングと管理に特化していて、製造は 100%アウトソーシングしています。

この特殊な破碎機を手掛けるきっかけは 40 年以上前に遡ります。

それまで当社は多品種少量生産の典型的な下請け企業でしたが、先代社長が社会に貢献できる企業になりたいと情報収集を行い、当時社会問題となっていた都市ごみの焼却炉から出る有害ガス対策として、都市ごみを定められた大きさに破碎できる破碎機を開発することを決意したことから始まります。

都市ごみと聞くと皆様は各家庭の厨房やゴミ箱を想定されて比較的柔らかいという印象をお持ちでしょうが、実際には分別が徹底されずに書類束や衣類、アイロンや包丁、スパナまであらゆる種類のものが混ざっています。

これらを均一に破碎するのは結構困難なことで、当初われわれもこれに気付かず納入 1 号機は故障の連続で徹夜で修理して翌朝会社に戻ると直ぐに次のクレームが入るといった状態でした。しかしながら先代社長の社会に貢献するメーカーになるという強い意志とお客様に迷惑は掛けないという使命感から全社を挙げ改良に努め、次第に各焼却炉メーカーに認められて行きました。

その後バブルの時代を迎えゴミ排出量がうなぎ登りになり、焼却施設の建設ラッシュもあって経営も安定し、更にダイオキシシン対策で一層焼却の前処理の重要性も増したことから破碎機もそれに順応する形で種類を増やし、通常の焼却施設だけでは

なくバイオマス発電用の破碎施設、ごみの燃料化破碎施設、下水処理場の処理残渣の破碎等多岐にわたる破碎機を提供するようになりました。

当社は所謂研究開発型企業として位置付けられ、常に技術的課題と向き合っています。しかしながら従業員 20 名程度の小メーカーが少ない人材や資金で常に新たな課題に挑戦

し、提案型企業として発展をするには自ずから限界があります。

そんな中で産業クラスター研究会には会の発足当初より特許関連部門、産官学連携部門を始め、海外翻訳部門、ホームページ制作部門、社員教育の講師派遣まで多岐にわたりお世話になってきました。

当研究会のように大企業で活躍され、退職後に地域の企業や社会の活性化のためにそれぞれの専門知識を生かし、親身になって相談に乗ってくれる人々と組織があるということは地域の企業、住民にとって大変心強く、幸せなことだと思います。

当研究会の益々のご発展をお祈りします。

(株)ヘリオス 代表取締役社長 富野 養二郎



一般都市ごみ用破碎機



下水残渣用小型破碎機

株式会社 ヘリオス

〒238-0102 三浦市南下浦町菊名 1247-49

(電話) 046 - 887 - 2011

(FAX) 046 - 887 - 2023

ホームページ : <http://helios-inc.co.jp>

事務局からのお知らせ

- ① 平成 28 年 9 月 6 日 第 11 回目の経営者交流会を開催し、個人会員の佐々木が「三浦半島の活断層」の講話をしました。講話のあとは防災について賑やかに懇談しました。
- ② 平成 28 年 10 月 12 日 当会個人会員による情報セキュリティの自主講習会「危ないあなたのパソコン、スマホ」を開催。多数の参加者から再講演の要望がありました。
- ③ 平成 28 年 10 月 15 日 「金沢まつり」、11 月 5 日～6 日 「よこすか産業まつり 2016」に法人会員の皆さんと出展参加。両祭りとも好天に恵まれ大盛況でした。
- ④ 平成 28 年 10 月 26 日と 11 月 30 日の 2 回に分けて横須賀市市民協働推進セミナー 「市民公益活動団体の運営講座」を受託開催。団体運営上の課題をアドバイスしました。
- ⑤ 平成 28 年 12 月 6 日 会員集会を開催。恒例の忘年会を兼ねてボーリング大会を開催し、法人会員からは若い社員の皆さんも多数参加。法人会員、(株)ハイ測器様が優勝杯を寄付。受賞者は角井松江さんとなり、成績発表は大いに盛り上がりました。
- ⑥ 平成 29 年 2 月は「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進強調月間」です。当会では来る 2 月 15 日 中小企業の皆さま向けに講演会を行いますのでご参加ください。テーマは昨年続き「見せよう！中小企業の力」です。内容は次のとおりを予定しています。
 - ・平成 29 年度 中小企業・小規模企業に向けた施策・・・神奈川県
 - ・ビジネス成功事例の報告・・・法人会員
 - ・専門家による情報セキュリティ講習会・・・個人会員
- ⑦ 新規入会者の紹介
 法人会員 香取屋商店 (横須賀市) / 個人会員 春名 尚 (横須賀市) 長嶋 みさき (横須賀市) 安藤 誠四郎 (横浜市)
- ⑧ 訃報 (謹んでお悔やみを申し上げます)
 法人会員 昭立工業 (株) 社長 鏑木 亨 (事務局 佐々木 興吉)

歴史散歩

“建武中興”の忠臣 楠木正成公(前編)

個人会員 徳山 昭仁

～日本人が長きにわたり憧れを寄せた英雄～

はじめに

わが故郷神戸は、横浜・横須賀と同様、明治維新の開国とともに西洋文化をいち早く取り入れ、文明開化が開き、日本の国際都市の一つとして大きく発展してきました。しかしその一方では、平清盛による福原京への遷都や日宋貿易のための開港(大輪田泊)をはじめ、源平一の谷の戦い、荒木村重による花隈城籠城、そして、太平記に記される神戸ゆかりの人楠木正成公の活躍など古くから歴史の大舞台ともなっている土地柄です。



大楠公湊川陣之遺蹟

こうした歴史の大きな出来事の中からここ神戸で今なお「楠公(なんこう)さん」と呼び親しまれている

一人の武将、「楠木正成公」について、およそ700年前の遠い時代に思いを馳せながら神戸にゆかりのあるその足跡を訪ね歩いてみたいと思います。後醍醐天皇を支え、鎌倉幕府倒幕までの正成公の活躍の場は主に京、河内国でしたが、建武の中興以降、心ならずも足利尊氏軍と敵対し、その生涯を閉じたのがこの地神戸(兵庫)でした。

湊川の合戦ゆかりの地「会下山(えげやま)公園」と「湊川旧址」を訪れる

晩秋の帰省時に穏やかな陽ざしに誘われ、子供の頃亡き父がよく連れて行ってくれた「湊川神社」を思い立ち、「楠公さん巡り」に出かけることとしました。神戸市営地下鉄西神・山手線「上沢駅」で下車し、東1番出口を出て、急な坂道をしばらく登ると右手に「会下山公園」の入口があります。さらにその入口を登り詰めると「会下山公園」の広場です。今では神戸市民の憩いの場となっているこの公園も、かつては正成公が足利軍を迎え撃つために陣営を敷いた「楠木軍陣営跡」です。

足利軍は、当初、朝廷側の勢力に押され、苦戦し、九州へと落ち延びますが、その後、僅か2ヶ月で勢力を盛り返し、陸海両方面から京へ向けて進軍することとなり

ます。これに対し、天皇は正成公に足利軍を討つよう下命します。正成公はその足利軍を兵庫で待ち受けることを決意し、自軍を率いて京より兵庫へ進軍することになり、そして、この会下山に陣を構えました。敵の軍勢5万人に対し、楠木軍はわずか700名でした。朝廷側の軍勢のほとんどが新田義貞軍に組み入れられ(2万人)、楠木軍は楠木家一族郎党などで賄うしかなかったのです。



大楠公像

時が移り、今では当時の光景を確かめ

ることは到底できませんが、公園からは兵庫港(和田岬)をはじめ神戸の街並みが一望でき、正成公がここに陣を敷いた理由が理解できるそんな思いが沸き起こる場所でした。同公園には、正成公を讃える巨大な石碑が建立されており、「大楠公湊川陣之遺蹟」と刻まれています。海軍大将東郷平八郎元帥の自筆によるものです。

会下山公園を下り、麓の道を東へ20分ほど進むと「湊川公園」と呼ばれる公園があります。「湊川旧址(きゅうし)」です。湊川旧址は、足利軍との戦い、「湊川の合戦」の舞台となった戦場跡です。

建武3(1336)年5月、正成公はその軍勢700名で足利軍と戦うこととなりました。敵陣へ切り込むこと16度。6時間の激闘の末、残る楠木軍は73名となり、全員が幾多の傷を負っていました。かかる戦況から各自最期を悟り、正成公は弟正季公と刺しちがえ、また従者たちも自刃またはお互い刺しちがえて果てたのです。同公園には、昭和10年、大楠公600年祭を記念して建立された馬上姿の正成公の銅像があります。東京千代田区の皇居前広場に建つ正成公の銅像にも劣らぬ凛々しい姿の銅像です。

かくして生涯を終えた正成公は、明治5年、湊川神社創建により神として祀られることとなりますが、これらのことは次号においてご案内したいと思います。



平成 28 年度 横須賀市市民協働セミナーの実施 市民公益活動団体の運営講座

事業活動紹介

新しい公共支援部会 部会長 加藤 幹雄

横須賀市市民協働推進セミナーは市が市民協働のまちづくりを推進するための啓発事業として毎年委託事業として実施しています。

市が公募して受託希望団体がセミナーの企画運営を提案して審査により受託者を決めていて当会は 25 年度、26 年度の「市民公益活動団体の広報力アップ講座」で当選しました。今年度は新たに「市民公益活動団体の運営講座」で応募したところ当選し受託事業として行うことになりました。

参加者の募集は「広報よこすか」や「NPO 法人」、「のたろん」の皆様には直接案内を差し上げ、さらに「FM ブルー湘南」では理事長が先頭になり放送による広報で参加者の募集を行いました。

実施に当たっては同じ内容のセミナーを 10 月 26 日（水）と 11 月 30 日（水）の 2 日間に分けて行い、少しでも多くの公益団体の方々に参加してもらい運営の手助けにしてもらえればと企画しました。京急汐入駅近くの産業交流プラザにおいて開催し、当会のスタッフ 3 人が創立以来経験した体験をもとに、良かったこと、失敗したこと、苦労したことなどを伝えて参加者それぞれの団

体運営の参考にしてもらおうセミナーとしました。

公益団体の立ち上げを考えている方から法人格を持たない団体の方、NPO 法人や一般社団法人の方などいろいろな公益団体の方々に参加していただきました。皆さん熱心に聴取していただき、各公益団体の方々が運営の進め方に真剣に携わっていることが伺われました。

このセミナーを行うにあたり当会自身がいろいろと振り返る機会が与えられたことになり、まだまだ足りない点が多く見つかることになりました。

改めて当会の運営についても考えるべきことがあると反省させられる一面もあり当会が一番勉強させられたセミナーではないかと感じました。



“危ないあなたのパソコン、スマホ”

第 2 回情報セキュリティ講習会の実施

事業活動紹介

環境事業部会 樋谷 祐一

最近、身代金要求型ウイルス「ランサムウェア」や標的型攻撃ウイルス、ネットバンキングの不正送金等情報セキュリティに関する被害情報が新聞を賑わしています。

情報セキュリティ大手のトレンドマイクロ社によると、「ランサムウェア」と呼ばれるウイルスは今年に入り急増。300 万円以上支払った中小企業もあった。調査 291 法人のうち約 3 割が何らかの攻撃を受け、深刻な被害を受けたと報告しています。この「ランサムウェア」はパソコンのみならずスマホやタブレット向けにも作られ、感染すると端末にロックが掛けられ操作ができなくなります。あるいはパソコン内のファイルを暗号化して閲覧できなくさせます。解除のためには金銭を要求してきます。



これらの被害に遭わないためには、その実態とその手口を知り、防御策を講じること、万一被害に遭遇しても、被害を最小限に抑えること、復旧の方法を知っておくことが必要な時代になっています。

そういう背景で、当会としての自主講習会を 10 月 12 日（水）に 18 時から約 2 時間、横須賀市産業交流プラザで実施しました。テーマと講師は下記の通りです。

1) 情報セキュリティ被害の実態と対策

講師：樋谷祐一（当会会員）

2) ウイルスなど被害に遭ったらどうしたら良いの！

講師：片平悌一（同上）

仕事が終わった後、駆けつけていただいた企業の方、一般参加者を合わせると 32 名でした。アンケート結果によると、理解度、満足度ともに 70～80%の方が理解でき、有意義であったとの評価でした。特に被害に遭った時の対処法は参考になったとの回答が多数でした。当会としては、中小企業の情報セキュリティのマネジメントシステム構築のご相談や支援を積極的に進めたいと考えています。どうぞ気軽に声をかけてください。



「プレスリリース・FACEBOOK・メール配信」の3点セットで

市民公益活動団体の広報支援

事業活動紹介

広報部会 平野 和夫

市民公益活動団体(以下、市民団体)は一般的に組織、経理、人材などがしっかりしている企業と違い、大半がボランティア、善意などに基づいて活動しているだけに、多かれ少なかれ弱点が付きものです。市民団体が日常の活動を通じて感じる問題の一つが「広報力の弱さ」です。マスコミ向け資料(プレスリリース)が書けないなど初歩的な課題があります。平成25年度に横須賀市の市民協働推進セミナー「市民公益活動団体の広報力アップ講座」の運営を受託し開催しましたが、市民団体の広報活動は簡単にいかないのが現実のようです。

市民団体から広報支援要請があった場合、まずプレスリリースの作り方を伝え、リリース単独またはチラシ添付で、担当と一緒に市政記者クラブに届けます。自閉症のお子さんを持つママさんと家族が、健常児、家族と一緒に楽しく過ごすイベントがあり、プレスリリースとチラシを代表

と一緒に記者クラブに届けました。その結果、地元フリーペーパーが代表を人物紹介欄で大きく取り上げました。また当日吉田雄人・横須賀市長から激励のメッセージが届いた上に、後日車座ランチまで実現しました。

更に複数枚(最大42枚可能)の写真と一緒にFACEBOOKに投函しました。広く情報を伝える「公開」に加えて、横須賀市経済部が運営する、市内限定の投稿家2,200人に情報が伝わる「横須賀くらぶ」にも配信しました。さらにそれをコピーし、メールアドレスが判明しているマスコミ及び知り合いにメール配信しました。1件の情報を「プレスリリース・FACEBOOK・メール配信」と最大3カ所で使いました。最近の広報支援事例として市内の高校・大学生が市長へ政策提案を行う若者団体や子ども食堂などがあります。当会は認定NPO法人として、地域貢献が求められており、今後市民団体への広報支援活動を強化します。

トピックス

「金沢まつり いきいきフェスタ 2016」と「よこすか産業まつり 2016」への出展

「金沢まつり いきいきフェスタ 2016」は10月15日(土)に横浜市金沢区の海の公園で、「よこすか産業まつり 2016」は11月5日(土)、6日(日)に横須賀市三笠公園で開催され、両祭りに出展しました。参加は恒例となり、準備も手慣れたもので手際よく完了。

出展のコンセプトを「環境(省エネ)・防災と地域経済の活性化」として、環境(省エネ)と防災をテーマにLEDと防災用品の販売を当会法人会員(株)大倉物産の協賛で行い、地域商店の活性化支援では、当会法人会員の「ちろりや店」が環境に配慮した自家焙煎珈琲と今年は、福祉作業所「ゆうゆう」との連携による新開発「コーヒー入りクッキー」とホットコーヒーの販売を行い、またパネルによる当会の紹介と会員募集に取組みました。



金沢まつり出展テント風景

両祭りとも晴天に恵ま

れ、来場者数はいずれも昨年を大幅に上回り、当会の出展テントも大盛況でした。省エネ(LED)と防災製品にも大変な関心が寄せられました。特にホットコーヒーは、水や珈琲材が無くなるくらい売れ、また、CSR(企業の社会的責任)をテーマとして開発された「コーヒー入りクッキー」も大変美味しいと好評で完売。「とても嬉しかったです！」(店主)。

また、特設コーナーを設けた「よこすか産業まつり」においては、主人に紹介したいと熱心に当会の活動内容を尋ねるご婦人が来たり、趣味の会の活動をやられているご婦人より熱心な質問があり対応しました。官庁の現職職員やOB、企業のOBなども訪れ歓談。一定の成果があったのではないかと思います。

毎年、当会の活動内容を紹介することは中々難しいと感じていますが、企業を支援する団体やNPOの特設コーナーや共同ブースが出店販売とは別であればアピールもし易いし、来場者も分かり易いのではないかと考えています。

(環境事業部会 阿部 昭彦、事務局 佐々木 興吉)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax: 046-847-6355 E-mail: yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所/〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先: 046-847-6355 E-mail: yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人: 木下 武